

中国人強制連行の殉難慰霊祭おごごで



中国人強制連行事件殉難烈士慰霊碑管理委員会の林次男代表委員（東和土地改良区理事長）は「中国人以上に多くの朝鮮人が強制労働させられた事実が、明らかになっています。中国人強制連行と密接に関係する事実として厳粛に受け止めなければならぬ」と改めて両国の友好を祈念しました。

戦時中の1944（昭和19）年、忠別川江卸発電所建設、関連のかんがい用遊水池建設事業で中国人338人が強制連行され、連行途中に34人が亡くなるなど88人が殉難しました。後にその苛酷な実態が明らかになり、犠牲者を慰霊するため、1972（同47）年に慰霊碑が建立されました。

7月7日、東14号共同墓地で中国人強制連行殉難烈士（じゅんなんれっし）慰霊祭が行われました。

同墓地の慰霊碑前には、旭川市内、町内から関係者約80人が参列しました。戦時中中国人労働者と同様に劣悪な環境で働かされた朝鮮人労働者の実態を調べている東川町内の「江卸発電所・忠別川遊水地・朝鮮人強制連行・動員の歴史を掘る会」メンバー、北海道教育大学旭川校に在学中の中国人留学生4人も列席して手を合わせました。

開拓の労苦しのんで誓い新たに慰霊の追悼

7月7日、東川町慰霊祭が行われました。平和と開拓の碑前で開拓の功労者、戦没者を追悼し、平和の誓いを新たにしました。

音楽行進には町内小、中学校と幼児センターの幼児が勢ぞろい。陸上自衛隊第2音楽隊（旭川）の34人を先頭に、第二小41人、第三小25人、東小49人、

7月7日、東川町農協で「夏の野菜生産者の集い」が開かれました。

東川町蔬菜（そさい）園芸研究会（園田稔会長）の11部会から約160人の生産者が出席、本格出荷期を前に、焼肉料理を囲んで鋭気を養いました。

会場にはほうれん草、ピーマン、長ねぎ、養液栽培、ハーブ、トマト、ブロッコリー、スイートコーン、軟白みつばの9部会14農家が標準規格品を出展、早くも出荷期を迎えている「ひがしかわサラダ」ブランドの野菜が勢ぞろいしました。



会場には（株）キョクイチ、丸果旭川青果卸売市場（株）、札幌ホクレン青果（株）の仲買卸3社の関係者らも出席。「道外野菜の出荷時期が後ろにずれ込んでいるため、野菜の単価は前年に比べ、103〜106%で推移している」「道内各地の産地は露地野菜が減少傾向にあり、施設野菜も鈍化している」などと野菜の作付け動向などを報告しました。

宮崎俊章同農協参事は「道内初地域団体商標『東川米』に続いて『ひがしかわサラダ』も地域団体商標を取りたい」と今後の東川野菜作付け、生産強化に期待を込めました。



50柱の開拓功労者の先人の英知と開拓魂で108年の歴史を築いてきた。今日の発展の礎えになった先人の御霊に感謝します」などと追悼しました。

スポーツ写真家、水谷氏迎えて写真トーク



7月8日、キトウシ森林公園物産センターでスポーツ写真家、水谷章人氏（日本スポーツプレス協会長、東京都在住）のギャラリートークが行われました。

東川町国際写真フェスティバルの協賛写真展として同所で展示中の水谷章人写真展「瞬」（8月17日まで）開催に合わせて来町しました。

会場には世界のトップで活躍しているスポーツ選手の躍動感に満ちた試合中の一瞬を捉えた写真など、昨1年間に撮影した最近作50点を展示しました。

「スキー写真で雑誌デビューして以来45年。展示した写真のチャンピオンたちは、いずれもこれから間違いなく活躍するであろうという人たち」

「スポーツ写真家として、今間違いない最年長。45年間に撮った選手は500人を超える。アイルトン・セナの死とともにもスポーツカーレースの撮影を止めた」「プロテニスプレーヤーのシヤラポアが来日した時、名古屋・大阪間を移動するために新幹線1列車のチケット全部を買って移動した。それが出来るほどのプロだった」などと各界の一流選手を撮り続けてきたエピソードを披露しました。

第一小と養護学校の児童が楽しい交流

6月26日、東川第一小学校（澤田安男校長、31人）と東川養護学校（高橋正志校長、115人）の児童が交流学習を行いました。

お隣り同士で距離が近い両校の交流を1と行いました。第一小4年生以上の児童18人が養護学校を訪問し、養護学校からは1、2、3年生の児童18人が第一小を訪れました。

7月15日、東3号北6線の町有林に設けられている「プリウスの森」で旭川トヨペット（松尾俊彦社長）の社員と家族が下草刈り作業を行いました。

同社は2009（平成21）年、社会貢献事業の一環として東川町との間で森づくりのための協定を結び、土地改良事業用に土砂採取した跡地の原野約1畝にミズナラ、シラカバ、ヤチダモ千500本の苗木を植樹しました。木が十分に育つように5年間毎年下草



刈りを行って森を育てよう、という計画です。社員と家族約60人が参加しました。昨年は雨天中止しましたが、今年は初夏を思わせる陽気。手鎌を使って植樹した面積の約6割で雑草の刈り取り作業に汗を流しました。

作業のあとはジンギスカン鍋を囲んでピクニック気分も満喫。「来年は桜の木を植えて桜並木を実現させたい」と意気込んでいました。



第一小では3年生生までの低学年13人が養護学校の児童を迎え、体育館で一小太鼓の練習やボウリング、玉入れ、お店屋さんゲームをして遊びました。

お互いの学校やお互いのことをもっとよく知ろう、というもの。相互に学校を訪問し、ゲームを楽しみながら楽しいひと時になったようです。

プリウスの森で2年ぶりの下草刈り